

## 令和4年度 調査研究評価委員会評価結果

令和4年12月6日（火） 午後1時30分から4時 Web開催

### ○評価委員

氏名	所属
◎ 飯島 義雄	神戸市健康科学研究所 前所長
井之上 浩一	立命館大学 薬学部 教授
原田 和生	大阪大学大学院 薬学研究科 准教授
平原 嘉親	摂南大学 農学部 准教授
三宅 眞実	大阪公立大学大学院 獣医学研究科 教授
和田 崇之	大阪公立大学大学院 生活科学研究科 教授

◎委員長

(五十音順)

### ○評価基準

評点	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
1	欠ける	劣る	乏しい	再考すべき
2	低い	やや劣る	十分でない	改善を要する
3	妥当である	標準的である	標準的である	標準的である
4	高い	優れている	標準以上	優れている
5	非常に高い	非常に優れている	優れた成果	非常に優れている

### ○評価結果（委員コメント・回答は主要なものを抜粋）

課題1				
課題名	医薬品等の品質確保及び健康被害防止に関する研究 化粧品中のホルムアルデヒド遊離型防腐剤イミダゾリジニルウレア定量法開発について (衛生化学部 医薬品課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果（平均）	3.8	4.3	4.2	4.3
委員 コメント	<p>○定量困難な化学物質の分析を固相という手法でアプローチし、簡易解析法として確立した点で、科学的・応用的に高度な研究結果だと思います。</p> <p>○HILIC-MS/MSでの安定性同位体希釈法などを利用することで、補正定量できる可能性があります。</p> <p>○この防腐剤の使用量、使用頻度の具体的なデータ、また、化粧品の防腐剤の添加量の考え方について、一般向けに情報発信していただきたい。</p>			
担当者 回答	<p>○概ね0.1%以上という高濃度で使用されることから汎用性を考慮し、本研究ではPDA検出器を検出系に用いました。質量分析装置を用いた手法についても今後検討したいと思います。</p> <p>○イミダゾリジニルウレアについては、弊所ホームページにて論文紹介記事を掲載しておりますが、一般向けについても記事の執筆を検討したいと思います。</p>			

課題2				
課題名	HIV およびその他の性感染症に関する研究 梅毒トレポネーマに関する研究 (微生物部 ウイルス課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果 (平均)	4.7	4.2	4.4	4.4
委員 コメント	<p>○梅毒の感染、流行状況を梅毒トレポネーマの遺伝子型から分類して把握することにより、将来起こり得る感染予防のための重要な知見であり、公衆衛生上重要な研究である。</p> <p>○これまで一般的に認識されていた感染経路、臨床症状を覆す可能性が見出されたことは大変貴重であるが、近年の感染者急増の原因については示唆するデータが無いように感じた。</p> <p>○HIV 啓発に合わせた梅毒の社会還元について、異性間伝播を据えた展開が求められると考えられる。</p>			
担当者 回答	<p>○梅毒患者届出数の再増加については、弊所健康危機管理課と共同で解析し、医療機関を未受診の梅毒症例のリバウンドと SNS を利用した個人的なセックスワークの拡大が原因となる可能性を学術雑誌にて発表しました。</p> <p>○現在の異性間の性的接触による梅毒の感染拡大を抑制するには、検査による梅毒感染者の診断と、治療による介入が必須だと考えます。診断機会を身近に設けるために、保健所等で実施している無料匿名 HIV 検査と同時に受けられる梅毒検査の体制整備が重要です。これらの普及啓発に今後も取り組む予定です。</p>			

課題3				
課題名	寄生虫感染症に関する研究 食品媒介寄生虫症:大阪府に流通する魚介類におけるアニサキスの寄生状況 (微生物部 微生物課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果 (平均)	3.9	3.6	3.9	3.8
委員 コメント	<p>○食中毒病因物質報告件数が最も多いアニサキスの寄生の傾向に関する基礎的なデータを収集する重要な研究だと感じました。</p> <p>○本研究の成果をもとにアニサキス食中毒の低減に向けた技術開発、方法の提案に繋げることはできないでしょうか。</p> <p>○本研究が全国区の調査としてどの程度通用するサンプルコレクションとなっているのか、慎重な考察を要すると思われれます。</p>			
担当者 回答	<p>○魚種、月、産地、体長等の宿主データを用いて、アニサキスの寄生率や寄生数等のデータベースを作成し、購入や生食の際の判断基準として活用できればと思います。</p> <p>○魚の回遊状況や海洋環境の変化等により、魚の漁獲量や流通量は変動します。特定の産地に限定する、あるいは漁獲量が多い地域などで継続的に調査する場合は、地域の専門家等の協力が必要であるため、共同で実施するための準備を進めています。</p>			

課題4				
課題名	食品に含まれる健康危害物質に関する衛生学的研究 メチル水銀監視体制の構築に向けて (衛生化学部 食品化学2課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果(平均)	3.9	3.8	4.0	3.8
委員 コメント	<p>○簡便な手法、かつ利用を控えるべき溶媒を代替させる指向性は高い利用価値と波及効果が期待されます。分析法としての検証も適正であり、安定した研究成果として高く評価できる。</p> <p>○メチル水銀のモニタリングは継続していくべき案件であるが、現在の分析技術の主流は一斉分析法であるため、他の有害金属類の分析へと拡張して欲しい。</p> <p>○メチル水銀は脂溶性でありマグロなどの脂質部分に多く含まれる。実態調査を行うなかで、ルーチン検査として継続的に使用可能できるよう研究を発展させて欲しい。</p>			
担当者 回答	<p>○水銀の形態別分析法について本法は適用可能と考えており、現在最適化に取り組んでいます。今後、他の有害金属の形態別分析についても検討を進める予定です。</p> <p>○今後実態調査を含めて多検体処理を行い、機器への影響などを確認することで、ルーチン検査として採用可能か検討していきます。</p>			

課題5				
課題名	大気汚染、住居及び職場環境における有害物質による健康影響に関する研究 住居と職場等生活環境における有害物質による健康影響に関する研究 (衛生化学部 生活環境課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果(平均)	4.2	3.9	4.3	4.1
委員 コメント	<p>○室内の殺虫剤等の有害物質の濃度と子供の尿中濃度に相関関係があることを示した点は評価できる。</p> <p>○今回の研究は公衆衛生上の一定の重要性があるものと認められる。しかし、この成果をどのように社会還元するかという視点がもう少し必要ではないか。</p> <p>○住居の築年数や建築材、換気の有無といったメタデータの収集が重要になると思います。</p>			
担当者 回答	<p>○現在健康被害の案件の大部分を占めるのは未規制の化学物質であることから、今後の国による指針値策定対象物質の抽出とその濃度指針値を定めるための資料として役立つものと考えています。</p> <p>○今後曝露源を探索するため、住居に関する様々な情報を付随させて試料を採取し、化学物質濃度に影響を及ぼす要因を解析するなど、研究を発展させる必要があると考えています。</p>			